

活動期及び寛解期潰瘍性大腸炎における 経口 5-ASA 製剤治療に関する実態調査 (観察研究)

この研究の目的は、潰瘍性大腸炎における腹痛や下痢・血便などの症状が見られない状態(寛解期)や、腹痛や下痢・血便などの症状が見られる状態(活動期)から寛解期まで、経口 5-ASA 製剤がどのように使用されているかを調査することです。また、観察期間中にどれだけの患者さんが寛解期を維持できるか、患者さんが観察期間中に再び活動期となる(再燃する)回数は何回か、症状がどのように推移するかを調べ、治療の向上に役立てたいと考えています。

今回の研究は「観察研究」と呼ばれているものです。これは、新しいお薬や治療法を試す研究ではなく、今のあなたの病気の状態からみた標準的と考えられている治療を行い、その結果を「観察」するものです。これらのデータを分析することにより、病気の原因の解明や、よりよい治療方法の開発に役立てようと考えています。

本試験は、国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会(臨床研究の実施または継続について、倫理的観点及び科学的観点から調査及び審議する委員会)においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。